

# 強制的テレワークにより従業員が受けた影響

専門分野

経営学、社会学

キーワード

ワークスタイル 主観的幸福 テレワーク  
新型コロナウイルス

## 研究目的・概要

本研究では、自宅でのテレワークの義務化が正社員の個人生活や仕事にどのような影響を与えたか明らかにしました。

緊急事態宣言に起因する強制的なテレワーク前とテレワーク最中における、次のことに関してアンケート調査をしました。

- ①ワークスタイル、②主観的な幸福感、③仕事と家庭の葛藤、④仕事のパフォーマンスの変化

その結果、次のことが明らかになりました。

### ①ワークスタイル

自宅での仕事において、劣悪な環境と明らかなスペース不足にもかかわらず、全体的に正社員の生活に対する満足度はやや高かったです。マイナス面としては、テレワーク中は他者からの仕事上のサポートやフィードバックが少ないということでした。

### ②主観的な幸福感

健康への満足度は、低下しました。これは緊急事態宣言によって外出できず、座りがちなライフスタイルになっていることが関係していると考えられます。また、男性は、経済状況に対する満足度が低下しました。これは、残業代の減少、ボーナスの減少、給与の削減などによるものでしょう。一方、女性は、家庭生活への満足度がわずかに上昇しました。

### ③仕事と家庭の葛藤

男女ともに、テレワークによって仕事上の時間やストレスの葛藤による家庭に与える影響が低くなりました。

これは、コロナ前には日本の正社員は、比較的長時間労働をしていましたが、テレワークによって家族同士が接する時間が増加したことに起因すると思われる。

### ④仕事のパフォーマンス

仕事に関するすべての側面（利他主義、仕事に対する誠実性、タスク・パフォーマンス）は、悪化しました。

中でも仕事に対する誠実性（時間を守る、休憩をほとんど取らない、勤務時間中に個人的なことに時間を使わない）の落ち込みが明らかに大きくなりました。

## ポスト・コロナ学

パンデミックと社会の変化・連続性、そして未来



秋山 肇 編

Post-COVID-19 Studies  
Pandemic, Change and Continuity  
in Society, the Future

コロナ禍で変わったことは何か？  
変わらずに重要なことは何か？

【本書で取り上げるテーマ】  
公衆衛生・日本国憲法・テレワーク・高齢者の活動・障害者の虐待と孤立・ユニバーサルな  
学習環境・移民と排外主義・各国市民の行動変容・デジタル・アートとオンライン文化芸術  
新たな社会を構想するために——

研究書

マニエー渡邊レミー・ベントン キャロ  
ライン・内田 亨・オルシニ フィリップ  
プ・マニエー渡邊馨子「強制的テレワーク  
により従業員が受けた影響」(秋山  
肇 編『ポスト・コロナ学』)



経営情報学部 経営学科

内田 亨 教授

担当科目：経営管理論、経営組織論、ヘルスケアマネジメント論、キャリア開発

HP

<https://www.nuis.ac.jp/teacher.utida/>

Researchmap

<https://researchmap.jp/torulyon>